



マイグレーションガイド

目次

1 章	はじめに	3
1.1	前提条件	3
1.2	マイグレーション対象バージョン	3
1.3	マイグレーション時の注意事項	3
1.4	マイグレーション手順	4
2 章	準備作業	5
2.1	使用しているコンポーネントの確認と再作成	5
2.2	設定情報のエクスポート	6
2.3	作業ユーザーの確認	12
2.4	サービスの停止	12
2.5	アプリケーションのバックアップ	12
2.6	管理データベースのバックアップ	12
3 章	マイグレーション作業	13
3.1	旧バージョンの本製品のアンインストール	13
3.2	新バージョンの管理コンソールのインストール	20
3.3	新バージョンの本製品のインストール	27
3.4	各種設定およびデータの移行	36
3.5	その他設定の移行	36
3.6	エクスポートした設定情報のインポート	37
4 章	動作確認	40
4.1	管理コンソールの動作確認	40
4.2	新バージョンの本製品の動作確認	40

1章 はじめに

1.1 前提条件

この資料は、DataAnyware 2.0（以下本製品と記述）をアップグレードするための作業を記述しています。

この資料の内容に沿って作業を行っていただければ、以前のバージョンで作成したデータを、引き続き新しいバージョンでご利用いただけます。

この資料を最後までお読みになってから、作業を始めてください。

1.2 マイグレーション対象バージョン

この資料は、本製品の以下のバージョンを対象としています。

- DataAnyware 2.0 V1.4.0 以降

V1.4.0 未満のバージョンをご利用中の場合には、事前に V1.4.0 以降のバージョンへマイグレーションを行ってください。

1.3 マイグレーション時の注意事項

本製品のサーバとクライアントは同一のバージョンである必要があります。

そのため、サーバとクライアントは同時にバージョンアップしてください。

クライアントを異なるバージョンのサーバに接続した場合、モジュールの不整合が発生し、再インストールが必要になります、ご注意ください。

本製品では、上位バージョンへのバージョンアップのみをサポートしています。

下位バージョンへのバージョンダウンはサポートしておりません。

また、リポジトリ DB も同様に上位バージョンで使用了ものを、下位のバージョンで使用することはできません。

1.4 マイグレーション手順

以下の手順でマイグレーションを行ってください。

2 章 準備作業	
☐	使用しているコンポーネントの確認と再作成
☐	設定情報のエクスポート
☐	作業ユーザーの確認
☐	サービスの停止
☐	アプリケーションのバックアップ
☐	管理データベースのバックアップ
3 章 マイグレーション作業	
☐	旧バージョンの本製品のアンインストール
☐	管理コンソールのマイグレーション
☐	新バージョンの本製品のインストール
☐	ライセンスファイルの移行
☐	各種設定およびデータの移行
☐	その他設定の移行
☐	エクスポートした設定情報のインポート
4 章 動作確認	
☐	管理コンソールの動作確認
☐	新バージョンの本製品の動作確認

2章 準備作業

この章では、マイグレーション前に実施する作業を示します。

2.1 使用しているコンポーネントの確認と再作成

サポート対象外となったグローバルリソースが存在するか確認してください。
該当するグローバルリソースがある場合、サポートされているグローバルリソースに置き換えて下さい。

グローバルリソースの置き換えは、同名の[接続名]のグローバルリソースを作成することで行います。

既存のグローバルリソースのプロパティ[接続名]をメモ帳などに記録し、グローバルリソースの削除を行った後、サポート対象となっているグローバルリソースを同じ[接続名]で新規作成してください。

V1.8.0 よりサポート対象外となったコンポーネント

コンポーネント名	バージョン
Lotus Domino	8.5

V1.7.0 よりサポート対象外となったコンポーネント

コンポーネント名	バージョン
DB2 for i	7.1
SQL Server	2008,2008R2
PostgreSQL	9.2,9.3,9.4

V1.6.0 よりサポート対象外となったコンポーネント

コンポーネント名	バージョン
DB2 for i	6.1
SQL Server	2005
PostgreSQL	9.1

V1.5.0 よりサポート対象外となったコンポーネント

コンポーネント名	バージョン
Access	2003
Oracle	11g

DB2	9.1
	9.5
DB2 UDB iSeries	5.4
PostgreSQL	8.2
	8.3
	8.4
	9.0
Lotus Domino	7.0
	8.0

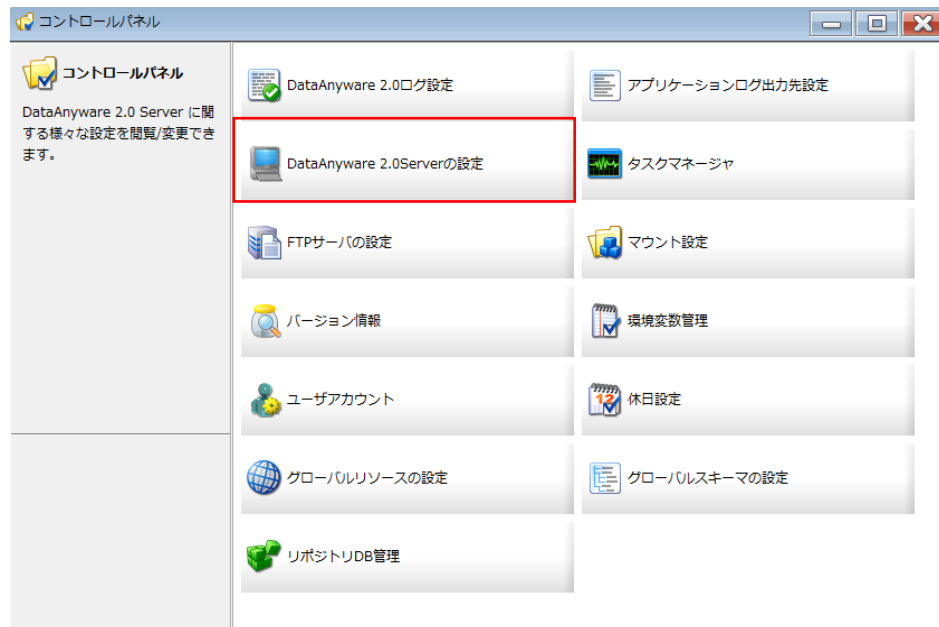
2.2 設定情報のエクスポート

サーバ移行機能を使用して、以下の設定情報をエクスポートします。

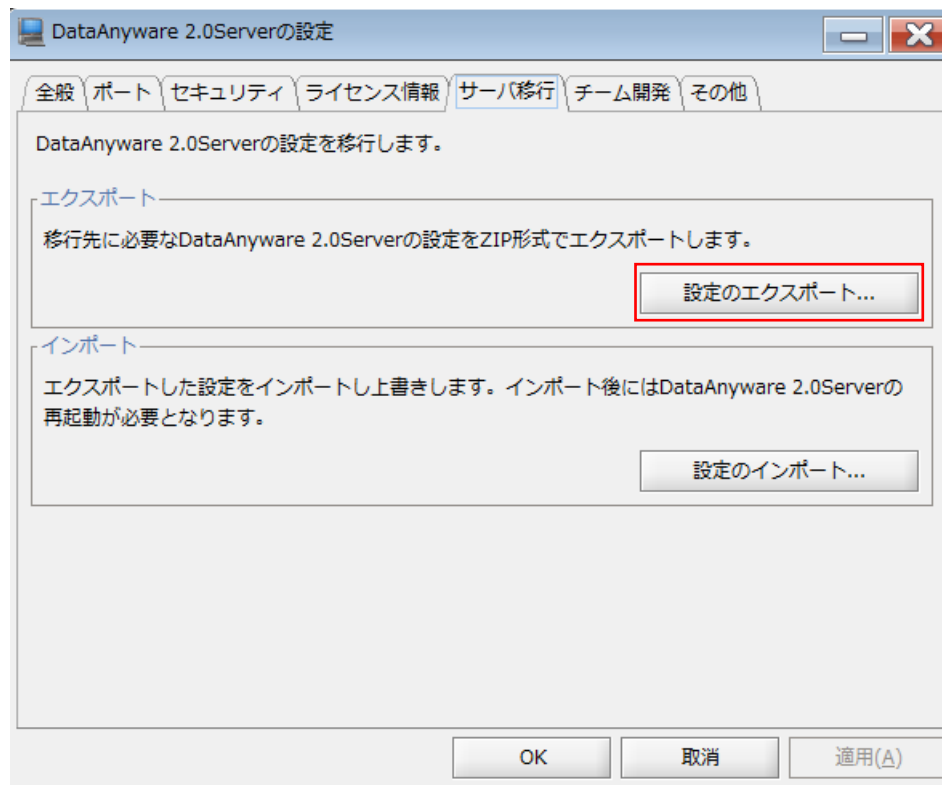
設定名	備考
ユーザアカウント/グループ	
ユーザアカウント/ユーザ	
サービス	
グローバルリソース	新バージョンでサポート終了になったアダプタのグローバルリソースは事前に再作成してください
環境変数	
トリガー	トリガーの状態を「無効」にしてエクスポートすることを推奨します
休日設定カレンダー	
プロジェクトファイル	サーバに保存されたプロジェクトが対象となります
アプリケーションログ出力設定	
マウント設定	インポートする際に以下の点を確認してください ・マウント元/マウント先がインポート先に存在する ・マウント元が参照可能になっている
グローバルスキーマ	V1.5.0 からの新機能です
グローバルユーザ定義ロジック	V1.6.0 からの新機能です

設定情報のエクスポート方法は以下となります。

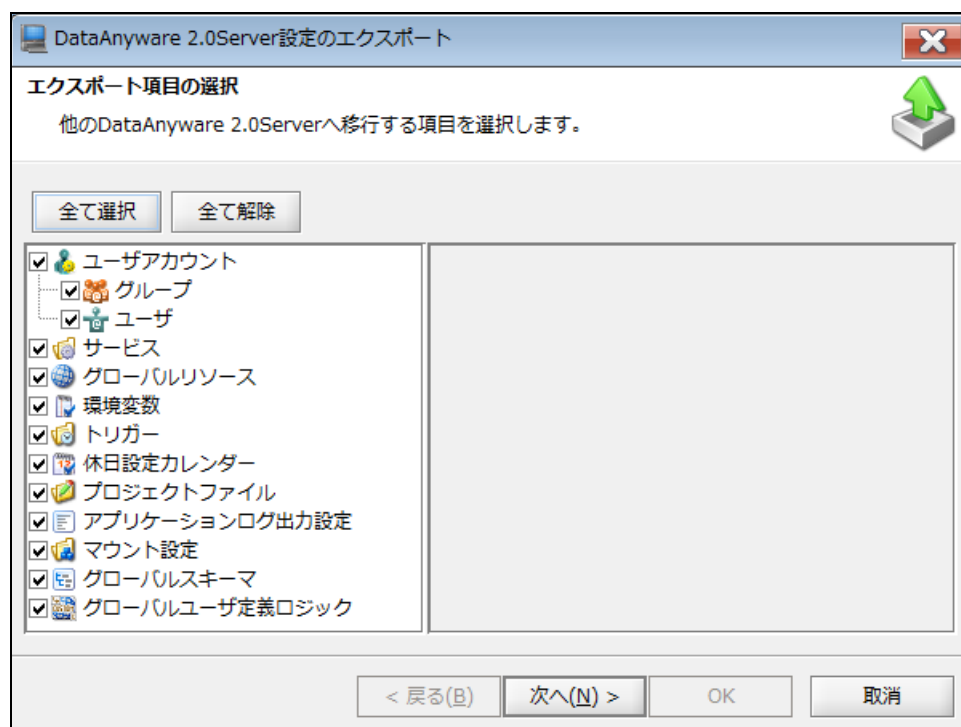
- 1 Studio のコントロールパネルから、「DataAnyware 2.0Server の設定」を選択します。



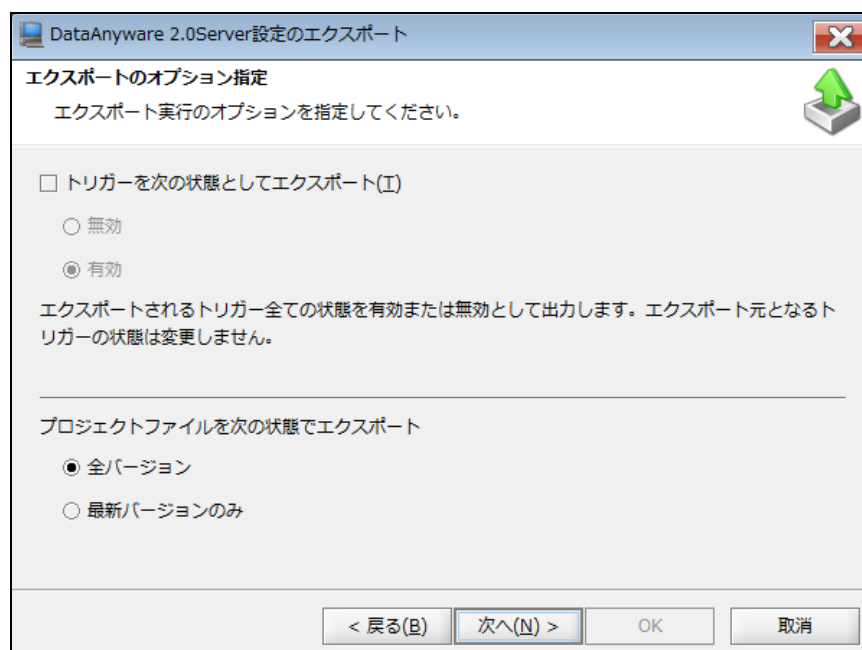
- 2 DataAnyware 2.0Server の設定画面が表示されます。[サーバ移行]タブを選択し、[設定のエクスポート]ボタンをクリックしてください。



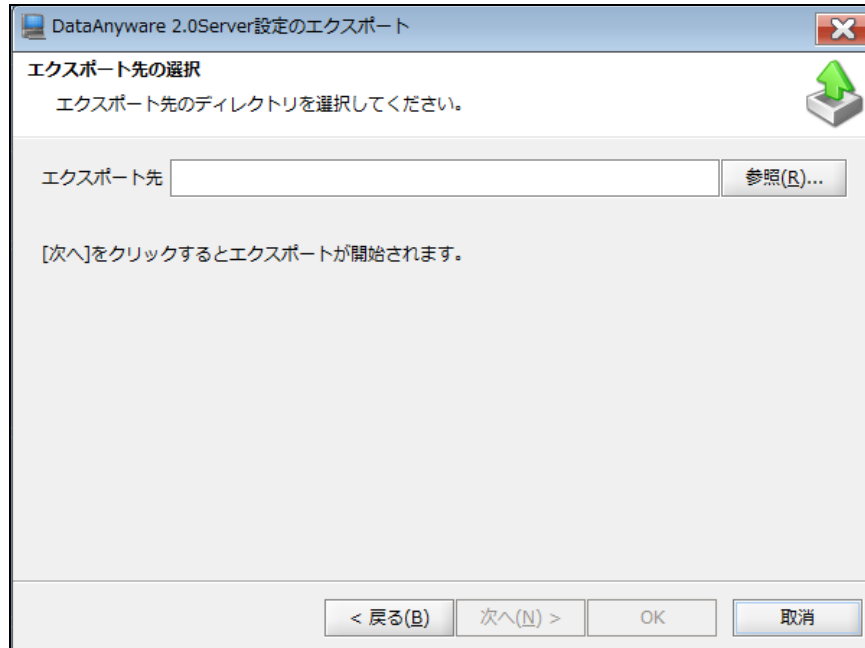
- 3 エクスポート項目の選択画面に遷移します。
- エクスポート項目はデフォルトですべての項目にチェックが入っています。
- チェックを確認した後、[次へ]ボタンをクリックしてください。



- 4 エクスポートのオプション指定画面に遷移します。
- 設定内容を確認し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

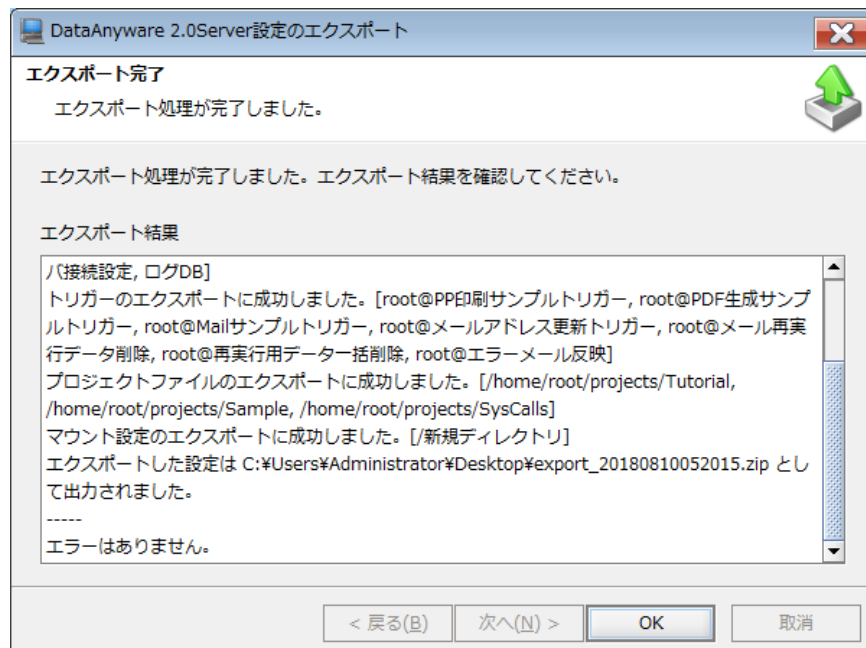


- 5 エクスポート先の選択画面に遷移します。
出力先を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



	出力先を指定する際、以下の現象が発生する場合があります。 現象が発生した場合には、以下の【回避方法】により現象の回避を行っていただきますようお願いいたします。 【現象】 DataAnyware 2.0 Studio を 64bit アプリケーションとして動作させている場合に発生 「エクスポート先の選択」画面において、プロパティ「エクスポート先」を指定する際、[参照]ボタンをクリックすると、DataAnyware 2.0 Studio が強制終了する 【回避方法】 ・プロパティ「エクスポート先」を手動で入力する 例) C:/tmp C:/tmp ディレクトリに「export_<出力日付><出力時刻>.zip」の形式で出力されます。 例) export_20180810052015.zip
 注意	出力する情報が多い場合、処理が完了するまで時間がかかることがあります。処理は続行されていますので、[取消]ボタンをクリックするなどウィンドウを閉じる動作をしないようにしてください。

6 エクスポート処理が正常に終了すると、以下のように表示されます。



以下の設定情報は、サーバ移行の機能では出力できないため、以後の作業で新バージョンの本製品をインストールした後に、再度設定する必要があります。

設定名	設定場所	備考
ローカル保存されたプロジェクト		バージョンアップ前に必ずサーバにコミットするようにしてください。
検索条件	マイログ	リポジットリ DB 有りの場合は移行できます。
DataAnyware 2.0 ログ設定 (圧縮設定・削除設定)	コントロールパネル	
HTTPS の設定	コントロールパネル	
チーム開発機能の設定	コントロールパネル	
最大同時実行数	コントロールパネル	
FTP サーバの設定	コントロールパネル	
lax ファイル内の設定項目	lax ファイル	
アダプタやトリガーのプロパティファイルの設定項目	アダプタやトリガーのプロパティファイル	
DataAnyware 2.0 Studio の 接続先一覧	Studio のログイン画面	
デザイナのレイアウト	デザイナ	

2.3 作業ユーザーの確認

本製品の導入を行った管理ユーザー (dbadmin) でログインしていることを確認してください。

2.4 サービスの停止

DataAnyware 2.0 Studio を起動している場合は停止してください。

Windows サービスから、「DataAnyware 2.0 Server」および「DataAnyware 2.0 Admin Console」を停止してください。

2.5 アプリケーションのバックアップ

アプリケーションのバックアップとして、以下のフォルダを保管してください。

- ・ DataAnyware 2.0 管理コンソール

[インストールディレクトリ]/AdminConsole/webapps/console

- ・ DataAnyware 2.0 Server

[インストールディレクトリ]/server

[インストールディレクトリ]/client

[インストールディレクトリ]/jre

2.6 管理データベースのバックアップ

本製品が利用している DB2 のバックアップファイルを作成します。

対象となるデータベースは、CVDB、DATADB、REFDB の 3 つです。

以下の手順でバックアップファイルを作成します。

- 1 DB2 コマンドウィンドウを起動します。
- 2 db2set DB2CODEPAGE=IBM-943 コマンドを入力します。
- 3 db2 backup database <対象データベース名> to <出力ディレクトリ>
コマンドを、CVDB、DATADB、REFDB の 3 つのデータベースに対して実施します。

※リポジトリ DB を使用している場合には、同様にバックアップファイルの作成を行ってください。

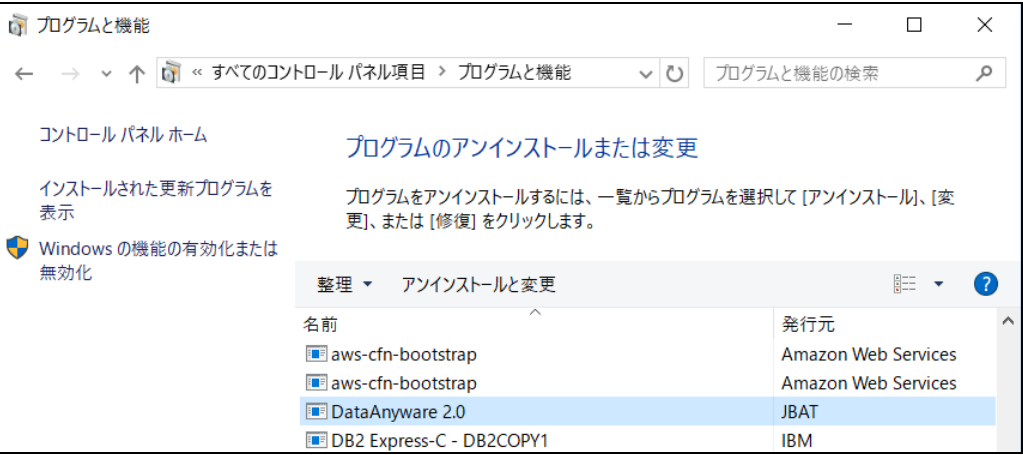
3章 マイグレーション作業

この章では、マイグレーション作業の実施内容を示します。

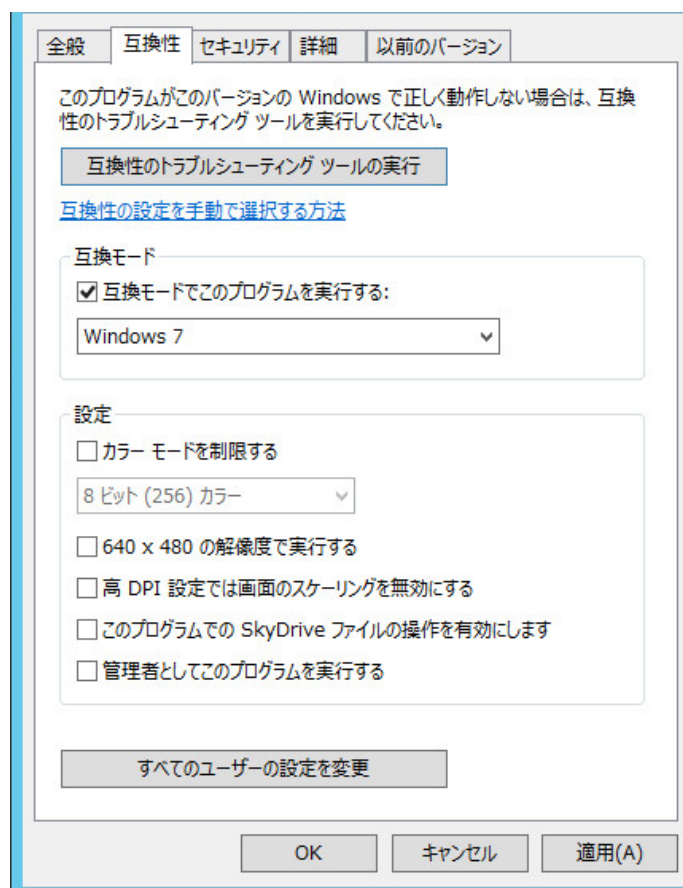
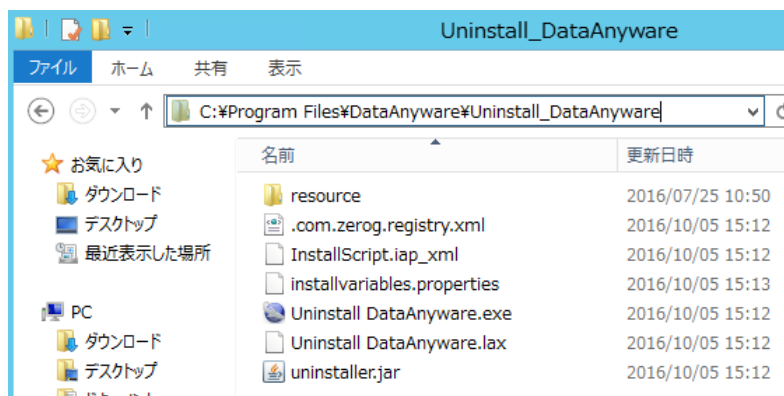
3.1 旧バージョンの本製品のアンインストール

旧バージョンの本製品（Server、Studio、管理コンソール）のアンインストールを実施します。

Windows のコントロールパネルより、[プログラムと機能]を起動します。
一覧から [DataAnyware 2.0] を選択し、[アンインストールと変更] をクリック
します。



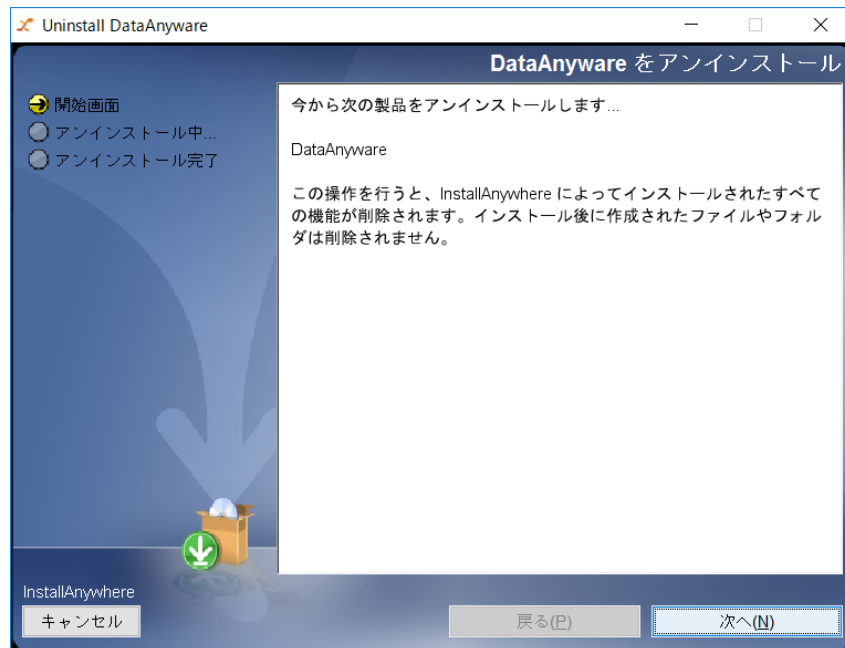
Windows Server 2012 環境で実行する場合、DataAnyware 2.0 インストールディレクトリ内の [Uninstall_DataAnyware] フォルダに存在する [Uninstall DataAnyware.exe] を互換モード「Windows 7」で実行してください。



互換モードの設定

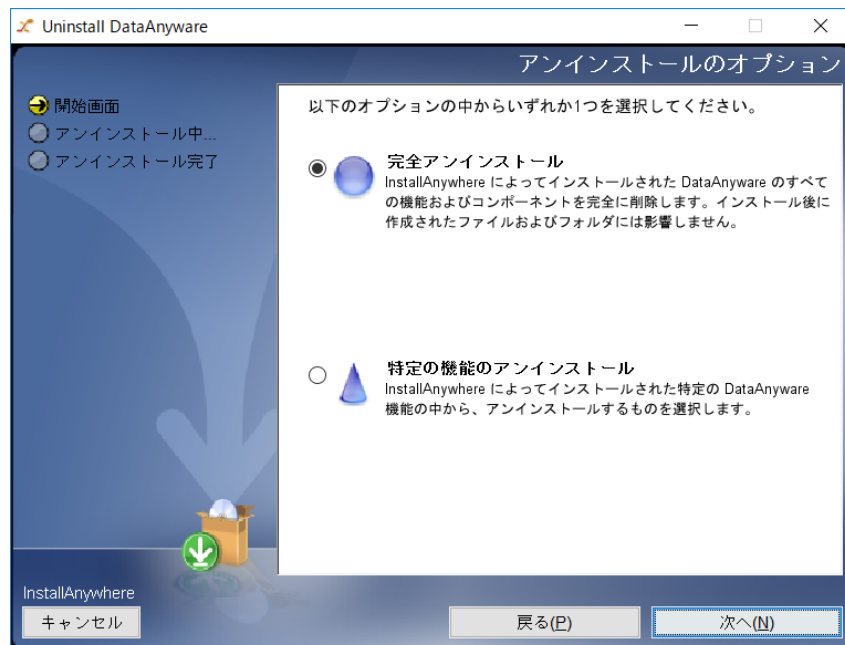
1 アンインストーラーの開始画面が表示されます。

[次へ] ボタンをクリックします。



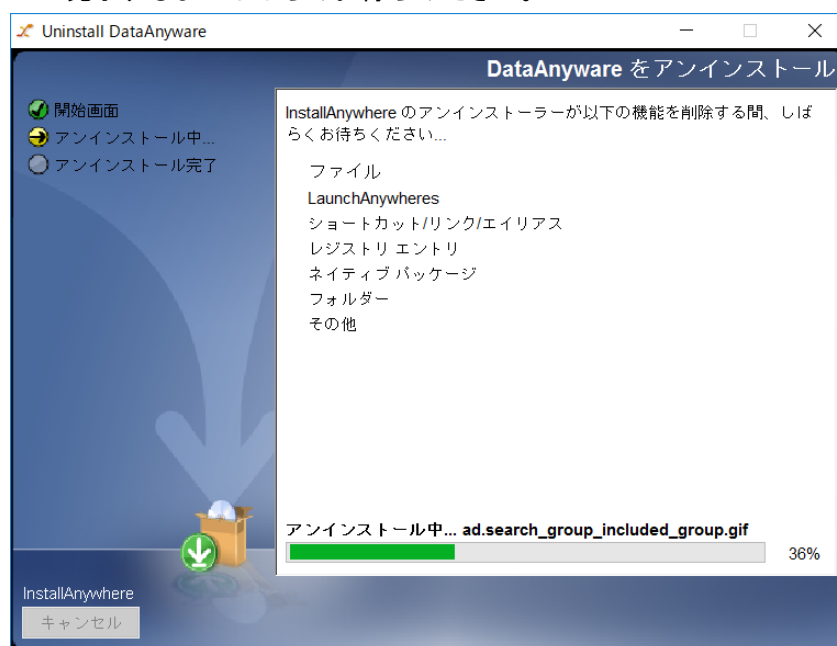
2 [アンインストールのオプション]画面が表示されます。

[完全アンインストール]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



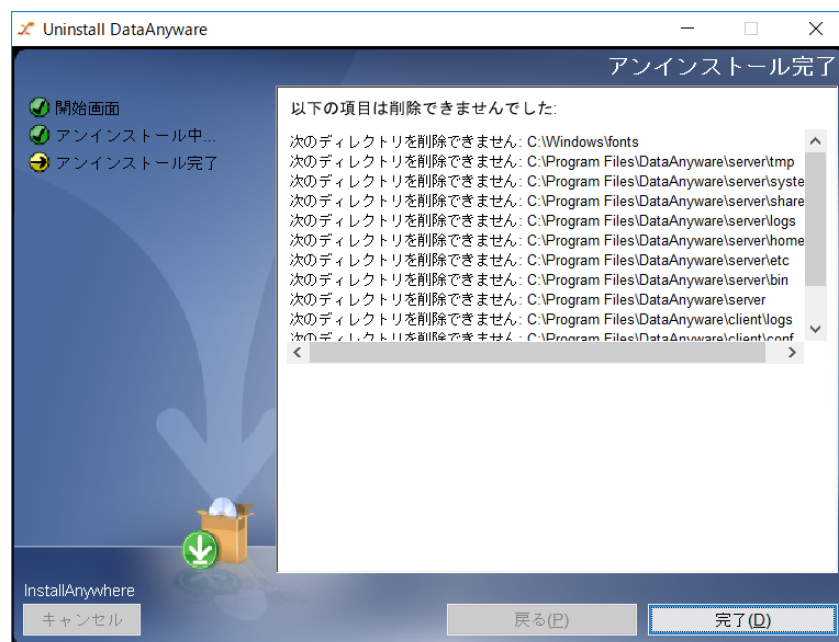
3 [アンインストール中]画面が表示されます。

完了するまでしばらくお待ちください。



4 [アンインストール完了]画面が表示されます。

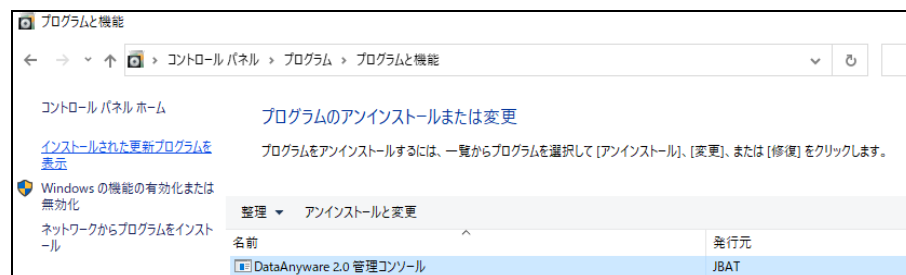
[完了]ボタンをクリックし、アンインストールを完了してください。



※アンインストール後に、一部フォルダ・ファイルが残ってしまう場合があります、その際には必要に応じて手動で削除してください。

5 引き続き、[プログラムと機能]一覧から [DataAnyware 2.0 管理コンソール]

ル]を選択し、[アンインストールと変更]をクリックします。



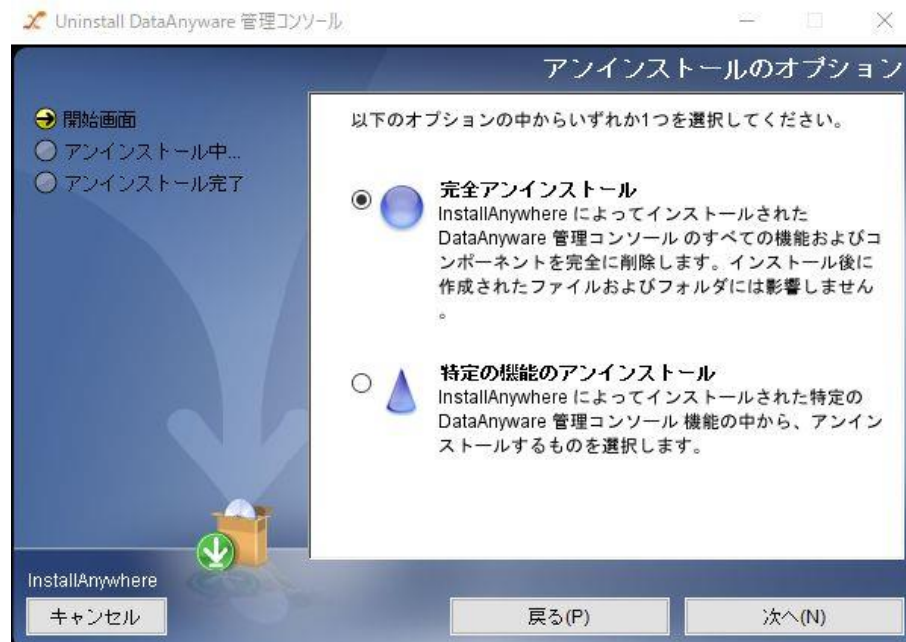
6 アンインストーラーの開始画面が表示されます。

[次へ]ボタンをクリックします。

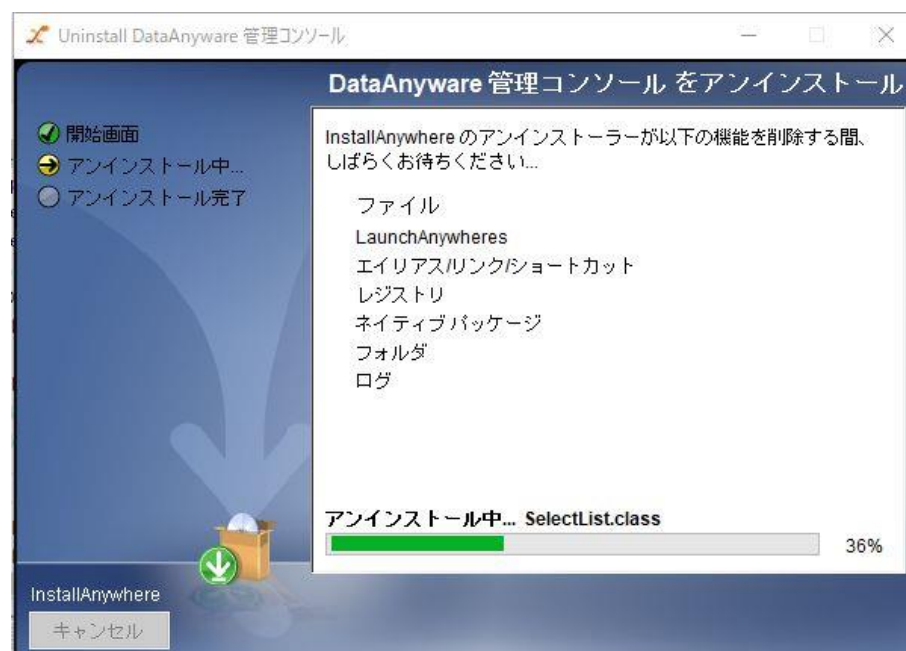


7 [アンインストールのオプション]画面が表示されます。

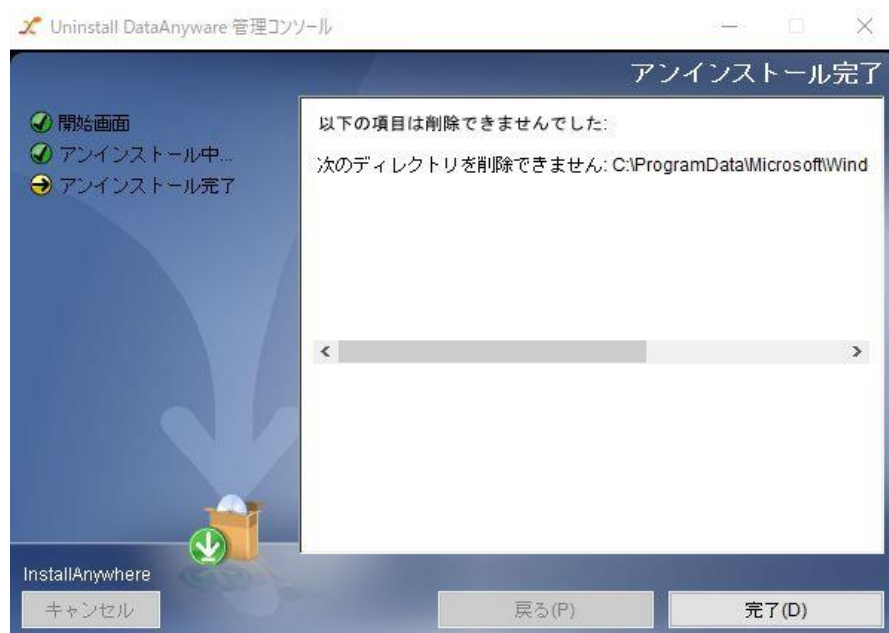
完全アンインストール]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



- 8 [アンインストール中]画面が表示されます。
完了するまでしばらくお待ちください。



- 9 [アンインストール完了]画面が表示されます。
[完了]ボタンをクリックし、アンインストールを完了してください。



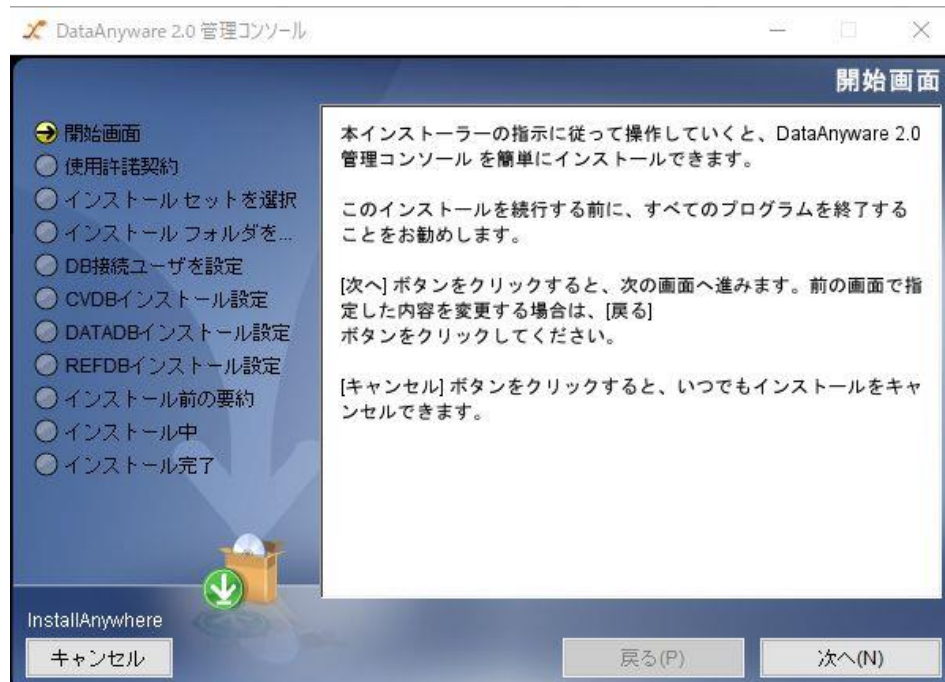
※アンインストール後に、一部フォルダ・ファイルが残ってしまう場合があります、その際には必要に応じて手動で削除してください。

以上で旧バージョンの本製品のアンインストールは完了となります。
引き続き、新バージョンの管理コンソールのインストールを実施します。

3.2 新バージョンの管理コンソールのインストール

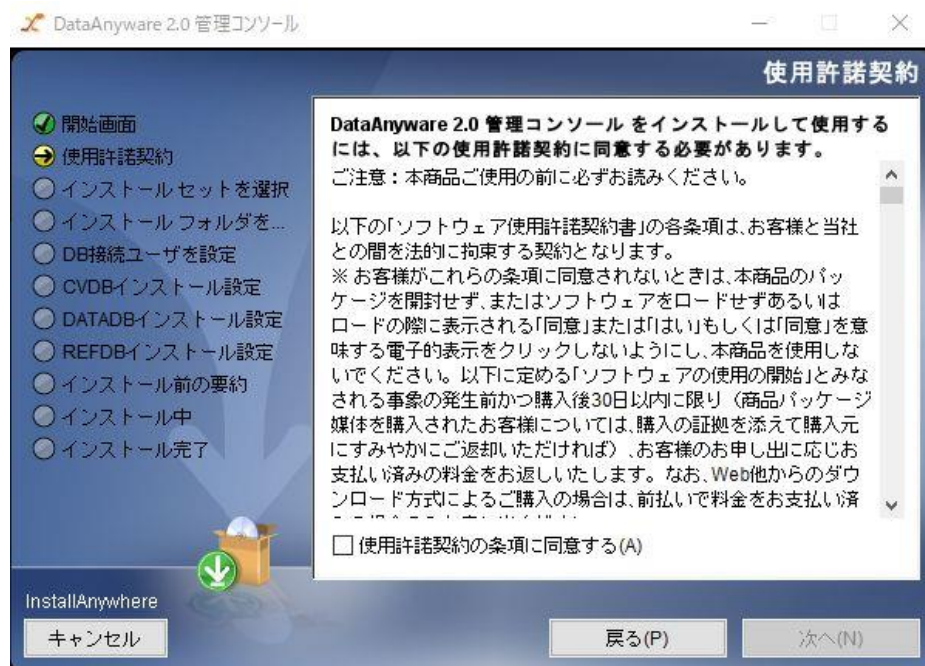
- 1 管理コンソールのインストーラーを実行します。

[開始画面]が表示されます。[次へ]ボタンをクリックしてください。



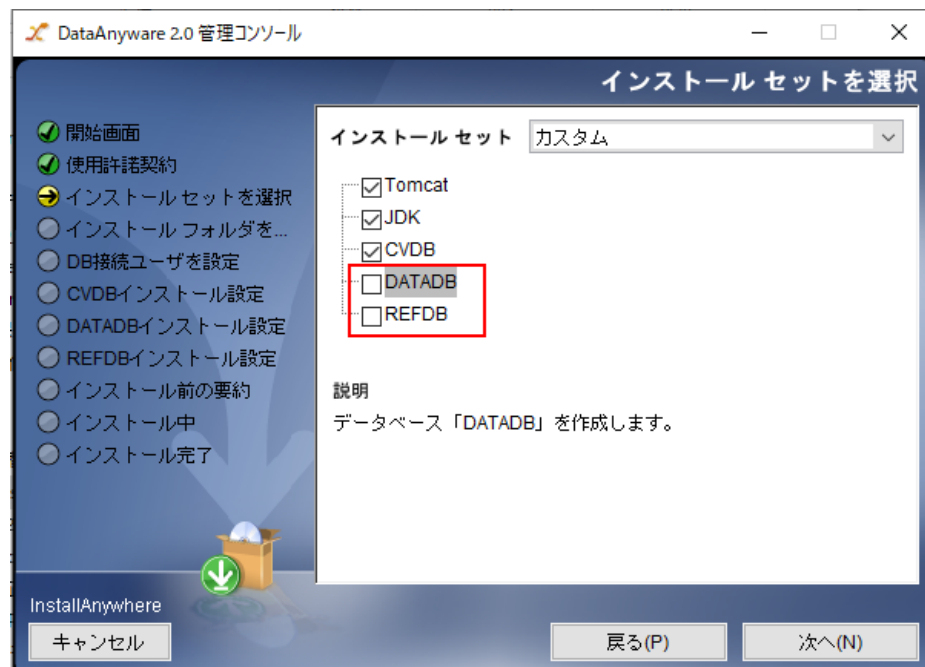
- 2 [使用許諾契約]画面が表示されます。

契約書の内容を確認の上、[使用許諾契約の条項に同意する]を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



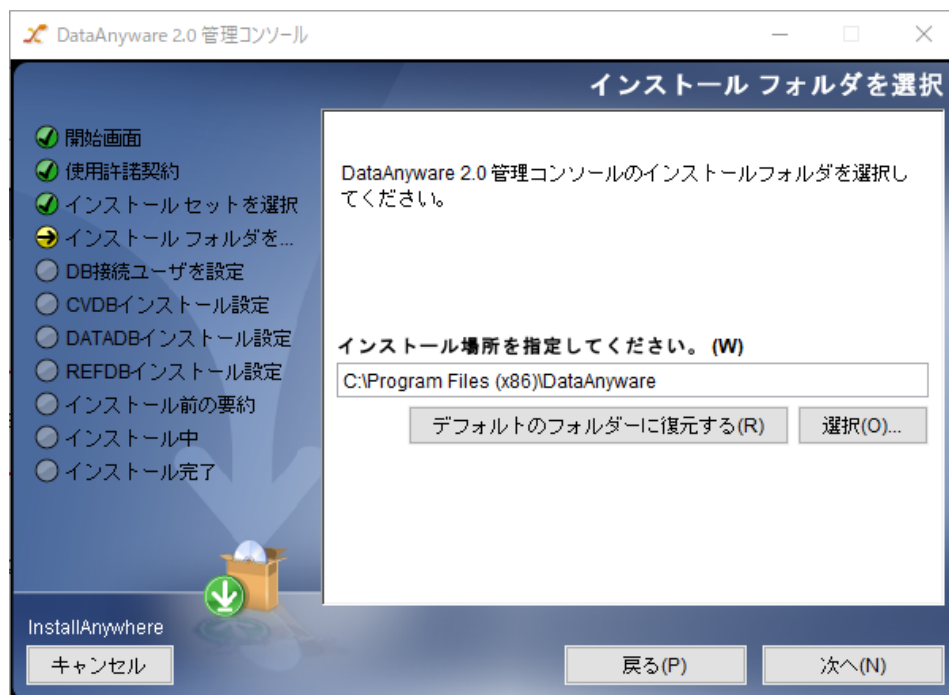
3 [インストールセットを選択]画面が表示されます。

「DATADB」「REFDB」のチェックを外した状態で[次へ]ボタンをクリックしてください。

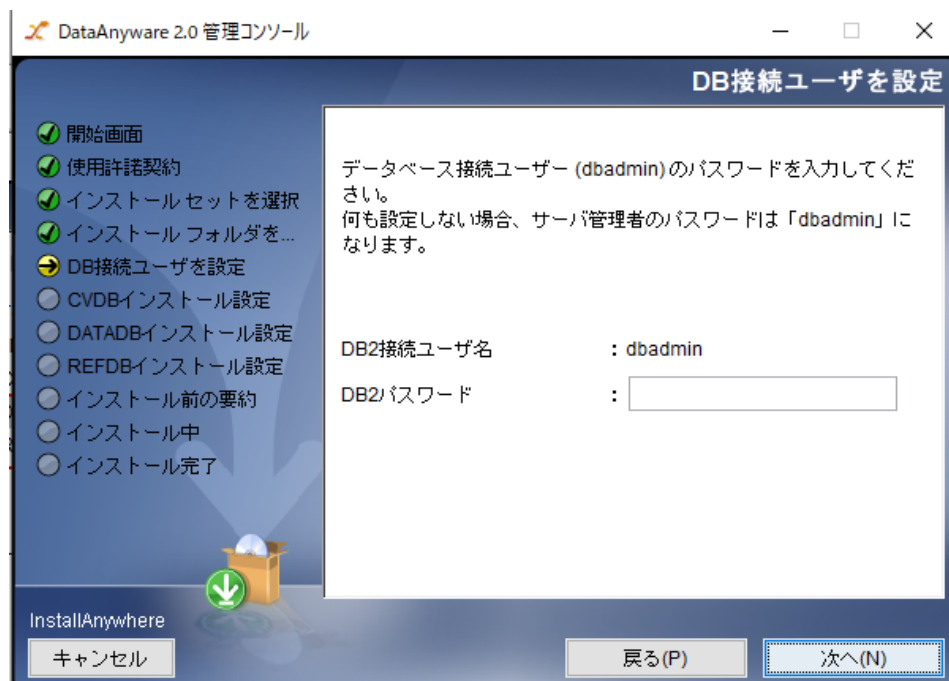


4 [インストールフォルダを選択]画面が表示されます。

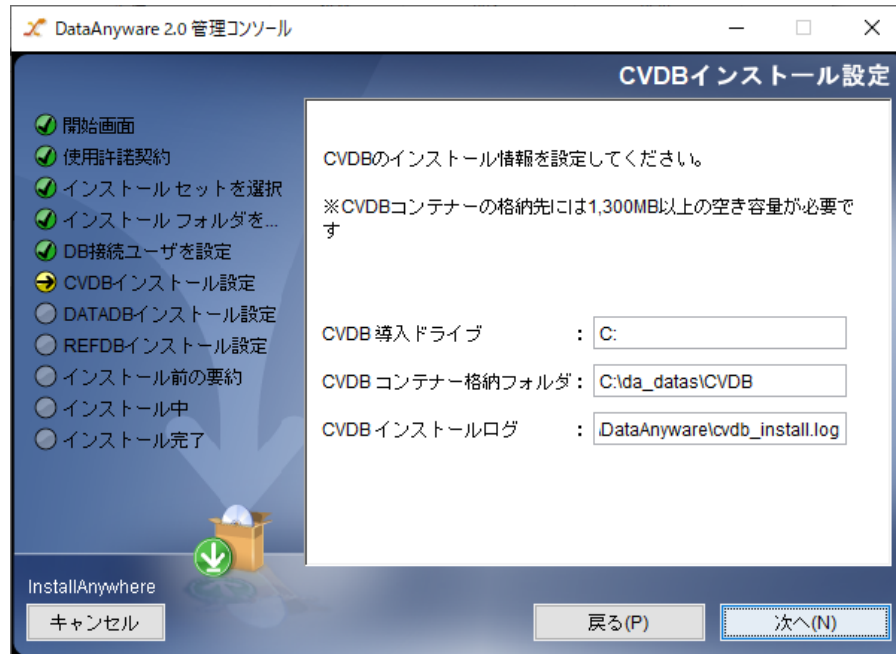
内容を確認の上、[次へ]ボタンをクリックしてください。



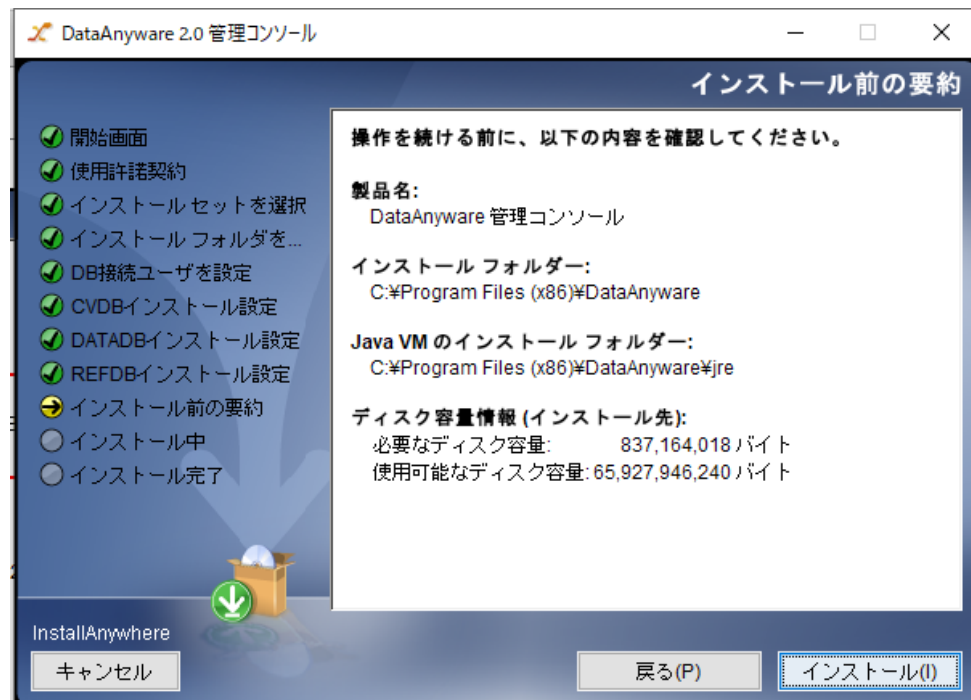
- 5 [DB 接続ユーザを設定]画面が表示されます。
db2 への接続ユーザ「dbadmin」のパスワードを入力して[次へ]ボタンをクリックしてください。



- 6 [CVDB インストール設定]画面が表示されます。
内容を変更せず[次へ]ボタンをクリックしてください。



- 7 [インストール前の要約]画面が表示されます。
内容を確認し、[インストール]ボタンをクリックしてください。



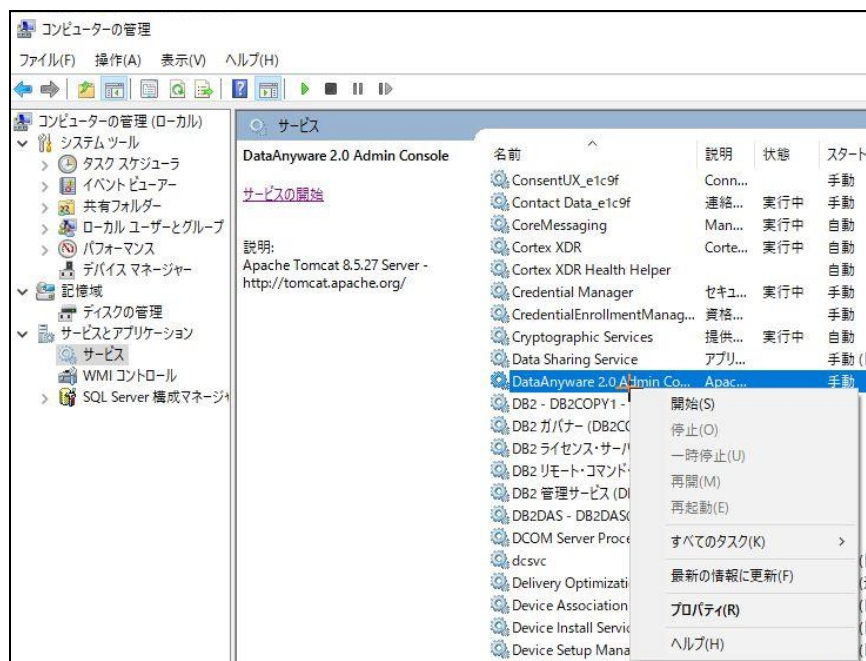
- 8 [インストール中]画面が表示されます。
インストールが終了するまでしばらくお待ちください。



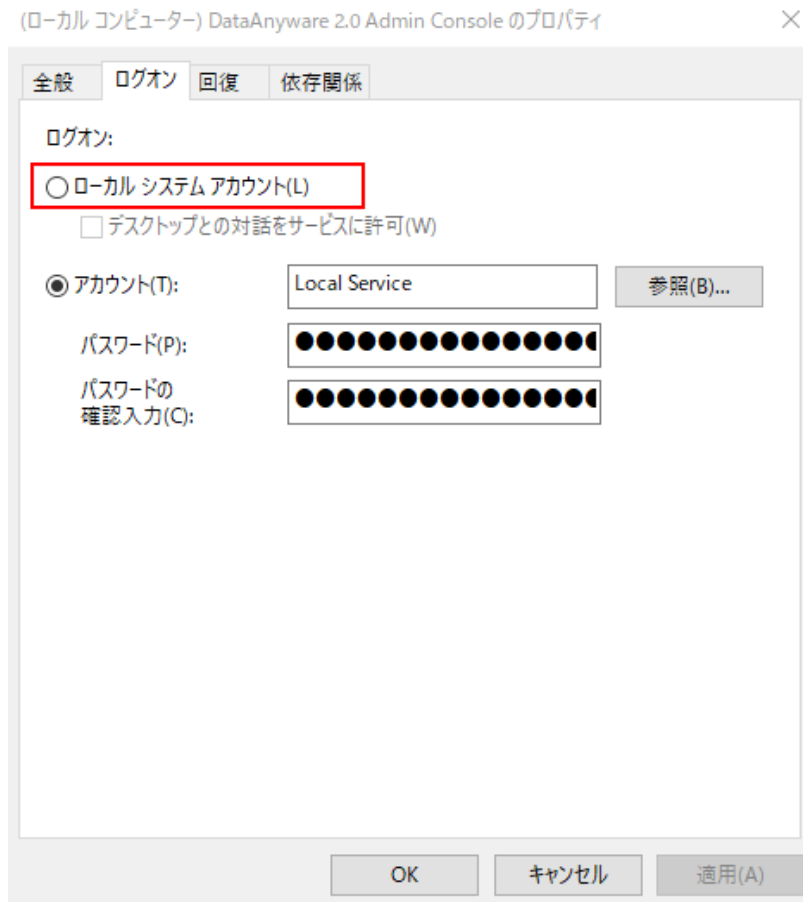
- 9 [インストール完了]画面が表示されます。
[完了]ボタンをクリックしてインストールを終了してください。



- 10 Windows の「コンピュータの管理」より Windows サービス一覧を表示し、サービス「DataAnyware 2.0 AdminConsole」のプロパティを表示します。



- 11 「ログオン」タブをクリックし「ローカルシステムアカウント」に変更し、[適用] ボタンをクリックします。

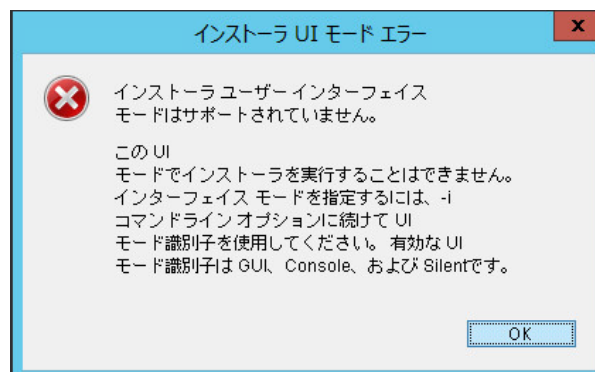


以上で管理コンソールのインストール作業は完了となります。
引き続き、新バージョンの本製品のインストールを行います。

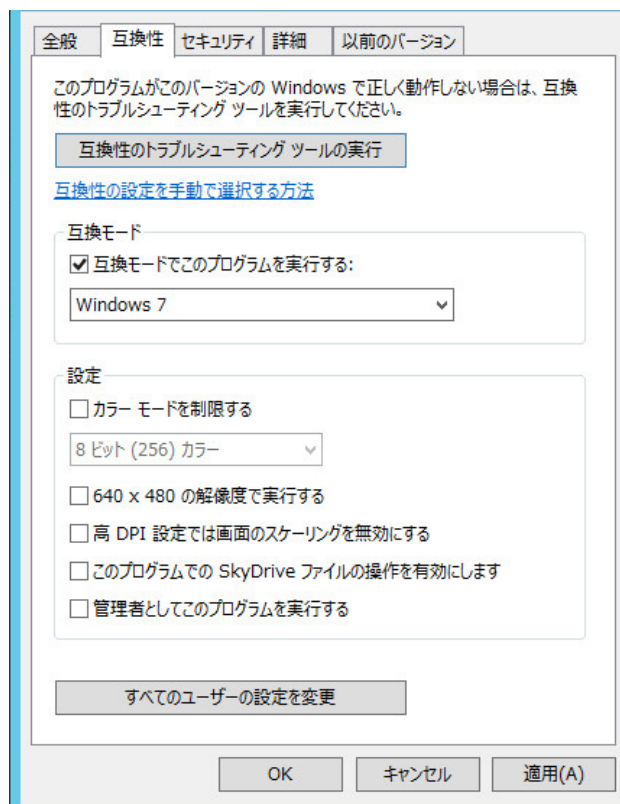
3.3 新バージョンの本製品のインストール

マイグレーション用のインストーラーを使用して、
新バージョンの本製品のインストールを実施します。

Windows Server 2012 環境で実行すると以下のエラーが発生します。
上記環境に導入する場合、互換モード「Windows 7」で実行してください。



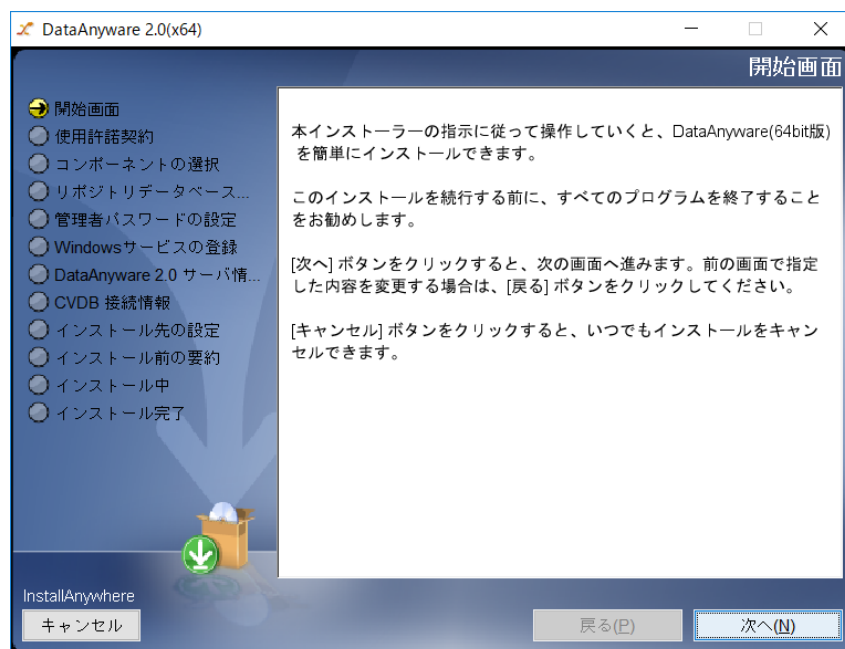
エラーメッセージ



互換モードの設定

1 インストーラーの開始画面が表示されます。

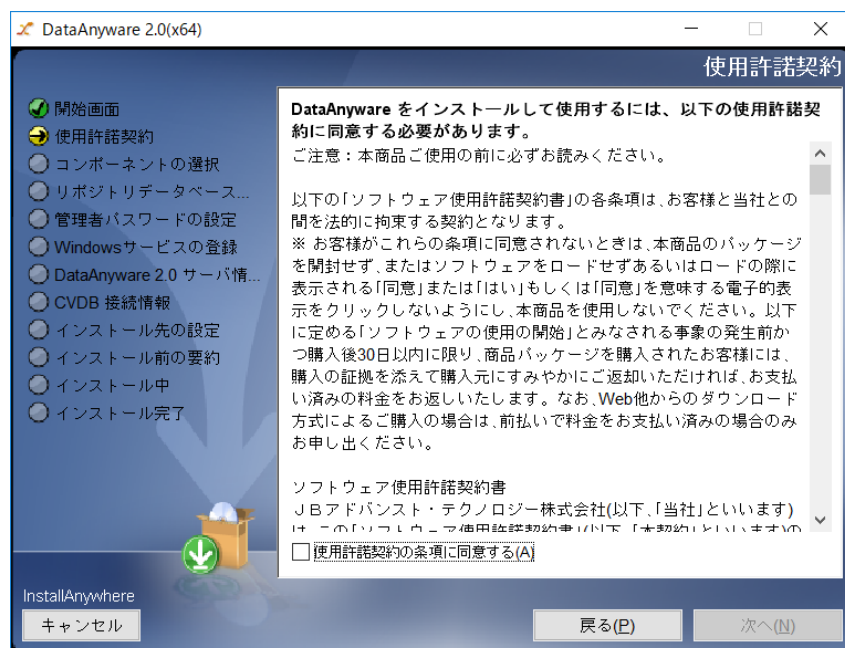
[次へ] ボタンをクリックしてください。



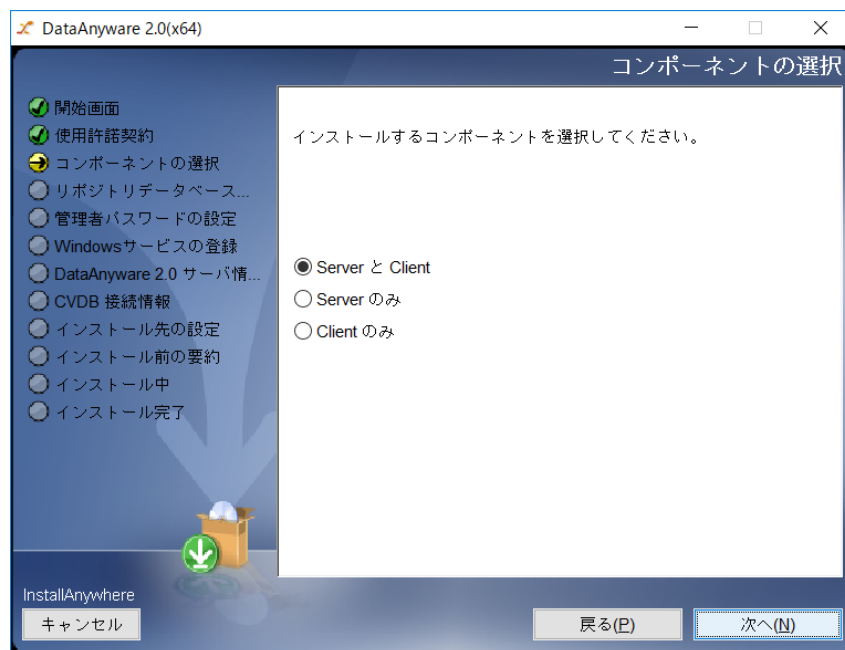
2 [使用許諾契約]画面が表示されます。

契約書の内容を確認の上、[使用許諾契約の条項に同意する]を選択し、

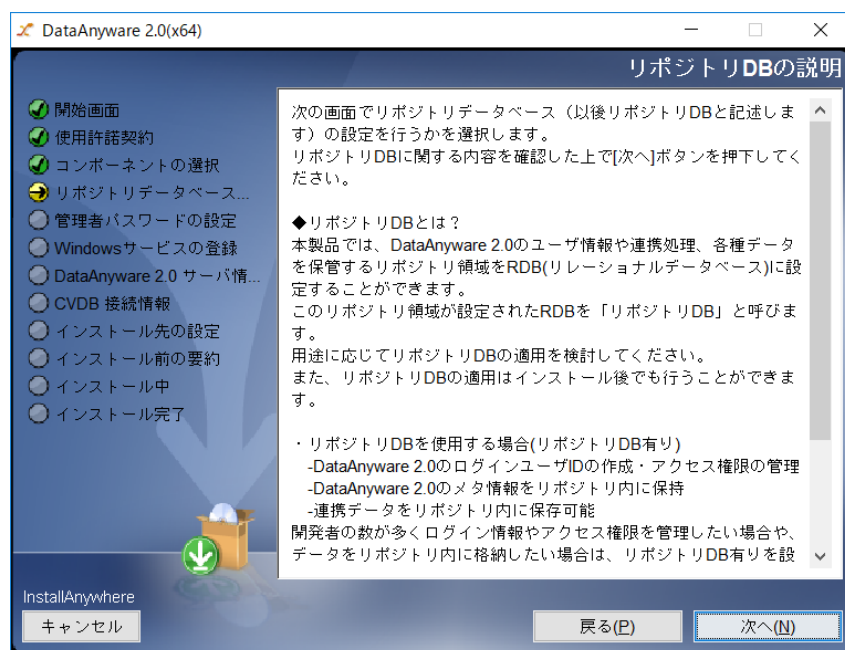
[次へ] ボタンをクリックしてください。



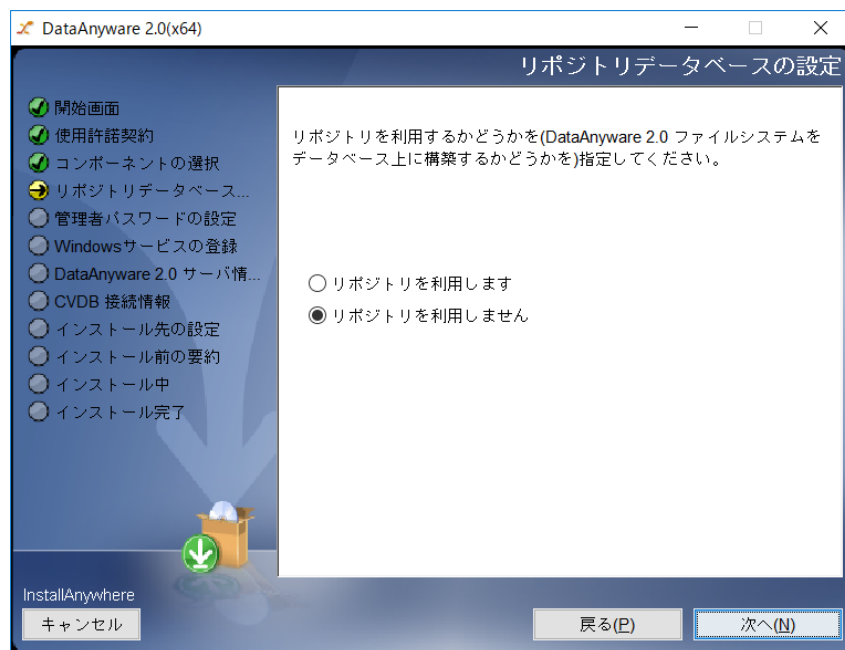
- 3 [コンポーネントの選択]画面が表示されます。旧製品のバックアップを確認し、server フォルダと client フォルダが存在する場合は[Server と Client]、server フォルダのみの場合は[Server のみ]、client フォルダのみの場合は[Client のみ]を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。
- ※[Client のみ]を選択した場合、以降の 4～11 の手順はありません。



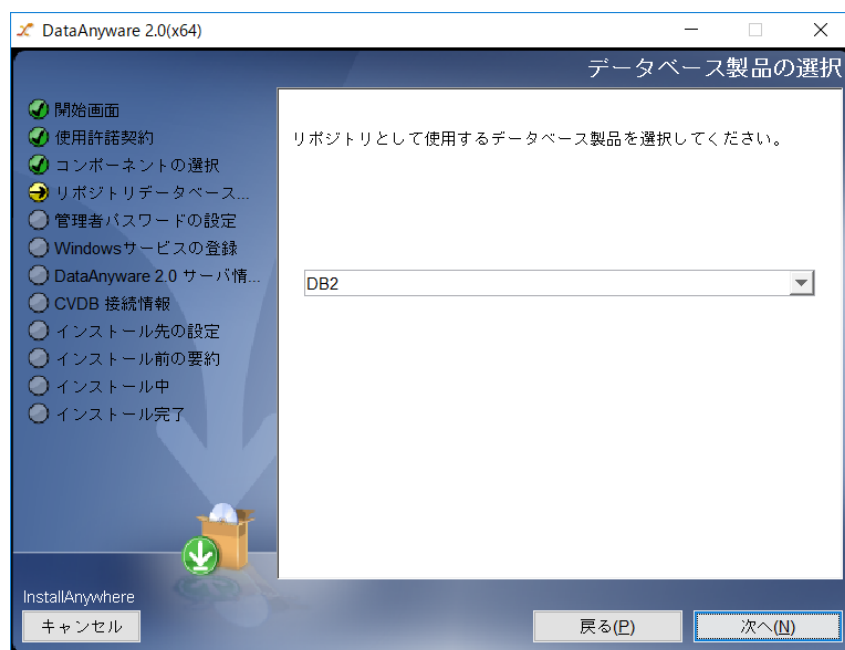
- 4 [リポジトリ DB の説明]画面が表示されます。
- [次へ]ボタンをクリックしてください。



- 5 [リポジトリデータベースの設定]画面が表示されます。
- 旧製品でリポジトリデータベースを使用していた場合は、
[リポジトリを利用します]を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。
※[リポジトリを利用しません]を選択した場合、以降の6～8の手順はありません。

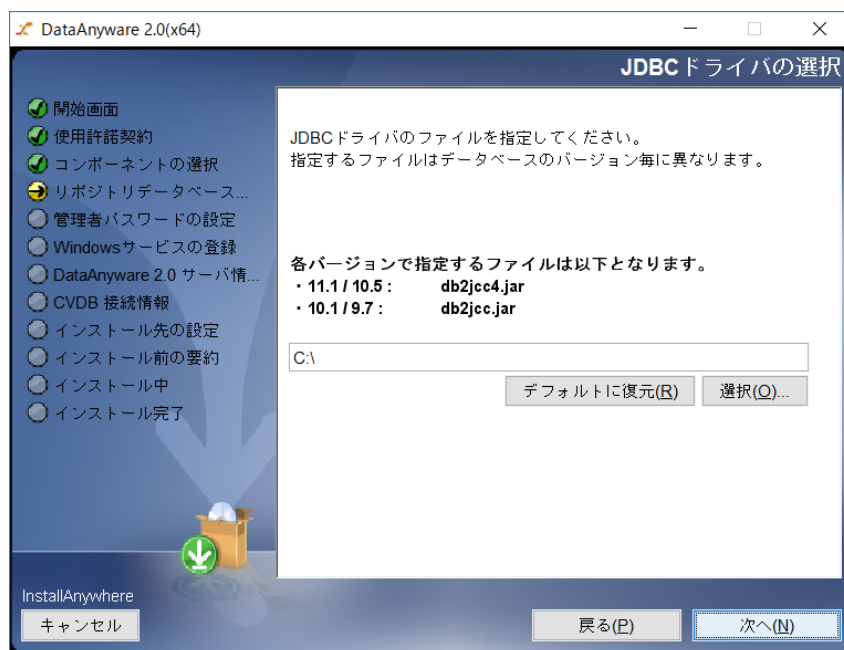


- 6 [データベース製品の選択]画面が表示されます。
- 使用するデータベース製品を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



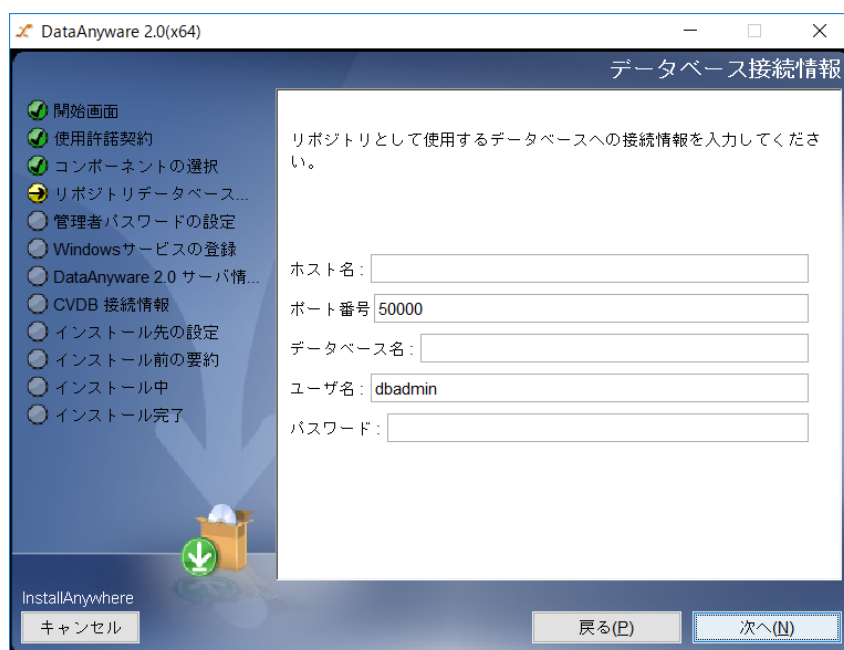
7 [JDBC ドライバの選択]画面が表示されます。

画面の表示内容を参考に、使用するリポジトリデータベースに合わせて
JDBC ドライバを指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



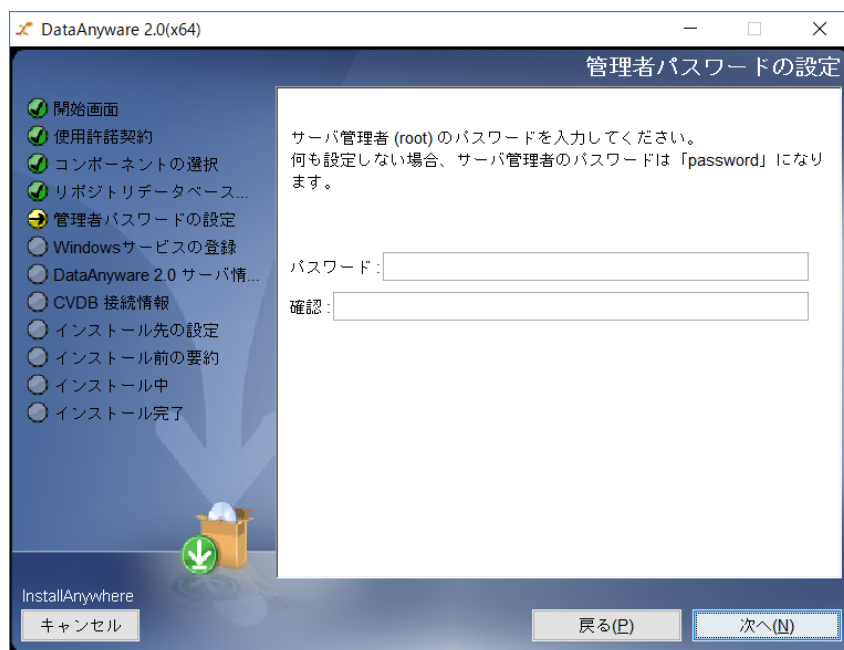
8 [データベース接続情報]画面が表示されます。

使用するリポジトリデータベースへの接続情報を入力し、
[次へ]ボタンをクリックしてください。



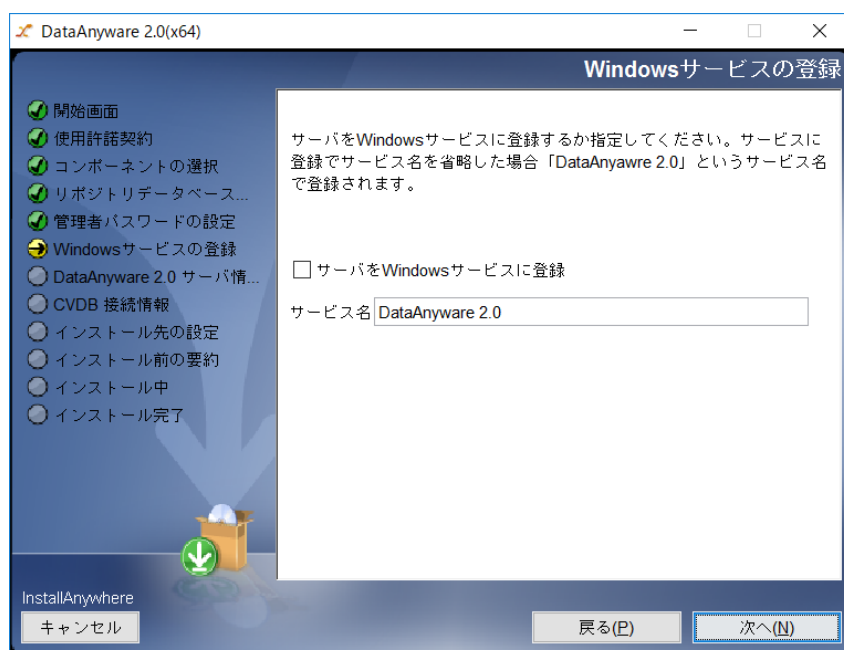
9 [管理者パスワードの設定]画面が表示されます。

デフォルトの「password」以外に変更する場合には、入力欄に入力し、
[次へ]ボタンをクリックしてください。



10 [Windows サービスの登録]画面が表示されます。

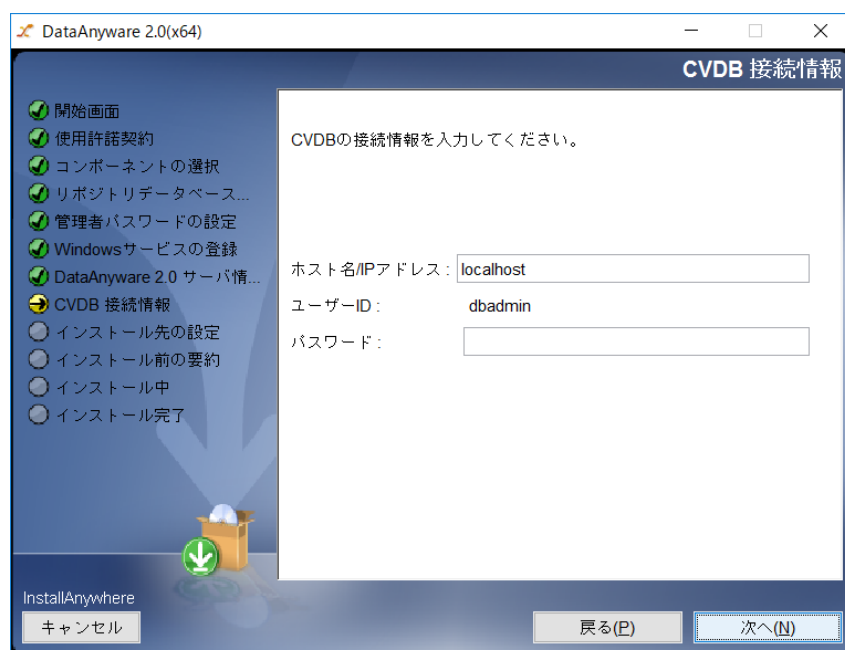
Windows サービスに登録する場合には、チェックを入れ、
[次へ]ボタンをクリックしてください。



- 11 [DataAnyware 2.0 サーバ情報の設定]画面が表示されます。
- DataAnyware 2.0 Server 導入環境のホスト名/IP アドレスを入力し、
[次へ]ボタンをクリックしてください。



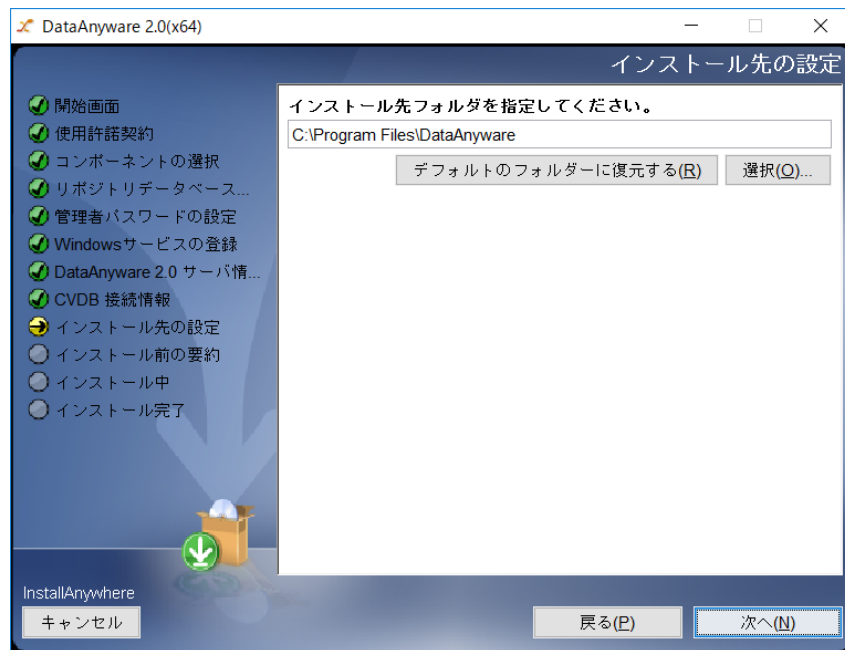
- 12 [CVDB 接続情報]画面が表示されます。
- CVDB 導入環境のホスト名/IP アドレスおよび dbadmin ユーザーのパスワード
を入力し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



13 [インストール先の設定]画面が表示されます。

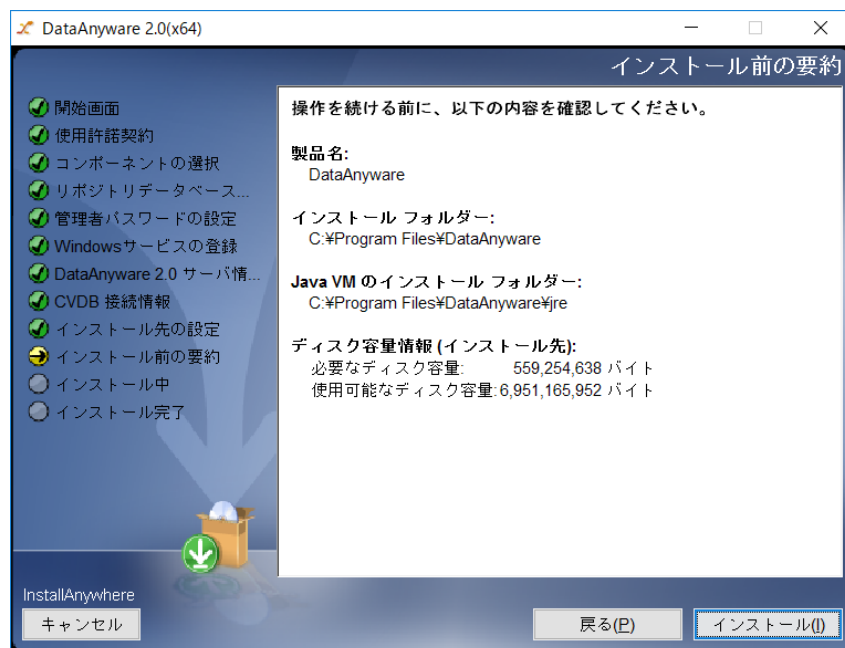
インストール先フォルダを変更する場合には[選択]ボタンをクリックするか
直接入力し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

※旧バージョンの本製品をインストールしたフォルダと同じフォルダを
指定してください。



14 [インストール前の要約]画面が表示されます。

表示内容を確認の上、[インストール]ボタンをクリックしてください。



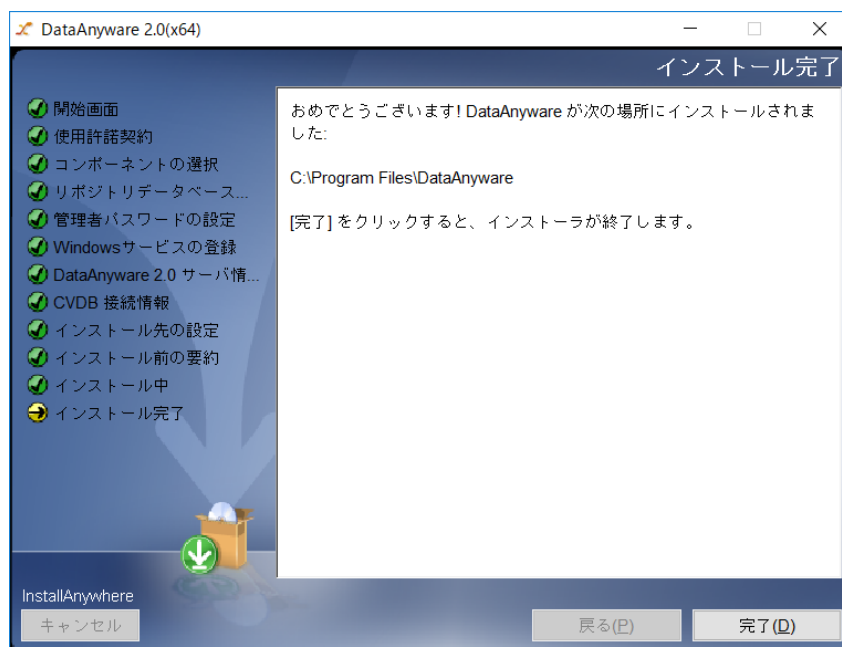
15 [インストール中]画面が表示されます。

インストールが完了するまでしばらくお待ちください。



16 [インストール完了]画面が表示されます。

[完了]ボタンをクリックしてインストールを終了してください。



新しいバージョンの本製品のインストール作業は完了となります。

引き続き、ライセンスファイルの移行を実施してください。

3.4 各種設定およびデータの移行

旧バージョンの本製品の設定を、新バージョンの本製品に移行します。移行対象のファイルは、「システム設定ファイル」と「ユーザデータファイル」の2種類となります。

※これらのファイルの設定がデフォルトの場合は、作業は不要となります。

1) システム設定ファイル(ファイル内容を変更)

旧バージョンの本製品のフォルダから、以下のファイルの設定を新バージョンの本製品の同名ファイルに移行してください。

※ファイルの上書きコピーは行わないでください。

フォルダ	ファイル名	説明
server/conf	dslog.properties	DataAnyware 2.0 Server のログファイルの設定が保存されています。
	system.properties	DataAnyware 2.0 Server のシステム関連の設定が保存されています。
client/conf	dslog.properties	DataAnyware 2.0 Studio のログファイルの設定が保存されています。
	system.properties	DataAnyware 2.0 Studio のシステム関連の設定が保存されています。

2) ユーザデータファイル

旧バージョンの本製品のフォルダ内(server/data フォルダ等)に配置した、スクリプトから参照されるファイルです。

必要に応じて同名フォルダに移行してください。

3.5 その他設定の移行

各種ツールの起動設定ファイル(*.lax)において、メモリ割当値(ヒープサイズ)や標準出力の変更を行っていた場合には、その変更値を新バージョンの同名ファイルに反映させてください。

※バージョンによって設定内容が異なる場合があるため、新バージョンのヘルプ内「プロパティリファレンス」ページを参照してください。

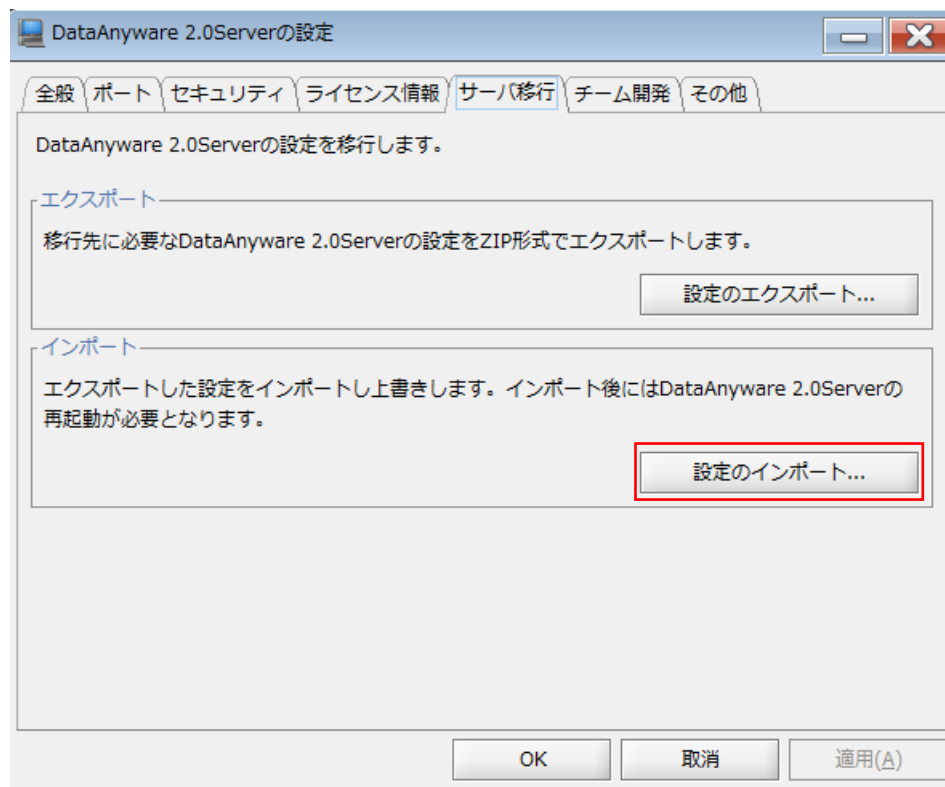
3.6 エクスポートした設定情報のインポート

「2.2 設定情報のエクスポート」項で出力した設定情報を以下の手順でインポートします。

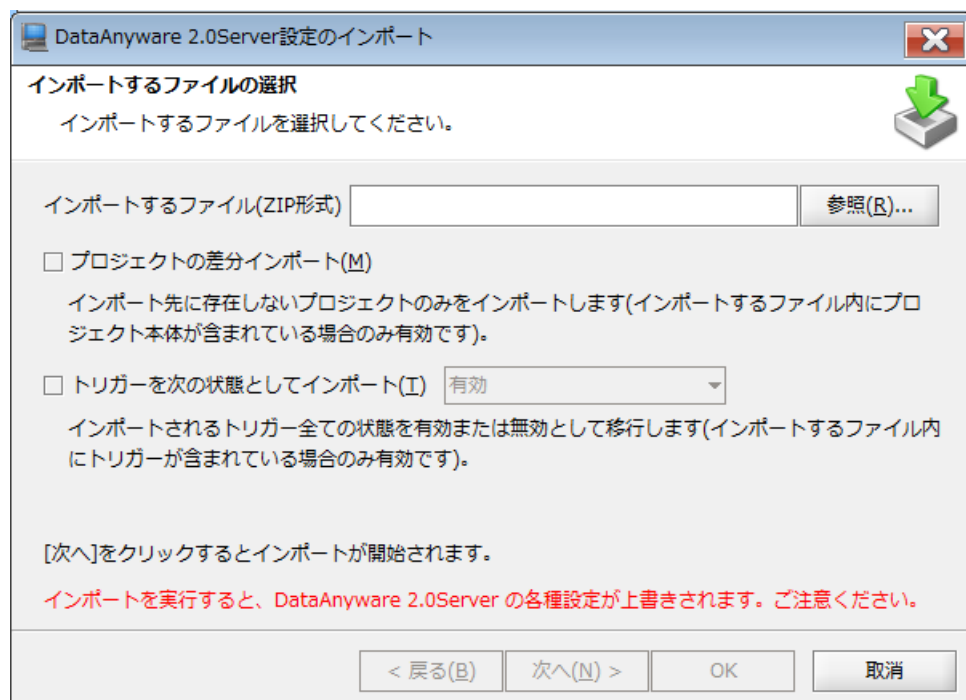
- 1 新バージョンの本製品のインストール時に、Windows サービスに登録した場合は、「DataAnyware 2.0 Server」を起動してください。
Windows サービスに登録しなかった場合は、
[インストールディレクトリ]/server/bin フォルダ内の
「DataAnywareServer.exe」を実行してください。
- 2 DataAnyware 2.0 Server が起動したことを確認し、Studio を起動してログインしてください。
- 3 Studio のコントロールパネルから、「DataAnyware 2.0Server の設定」を選択します。



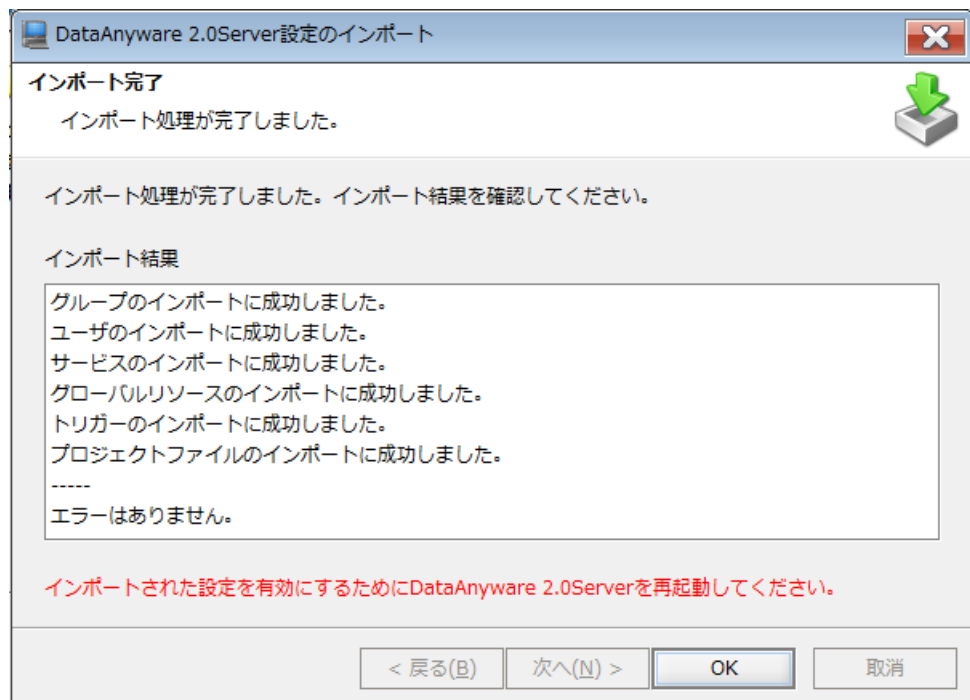
- 4 DataAnyware 2.0Server の設定画面が表示されます。[サーバ移行] タブを選択し、[設定のインポート] ボタンをクリックしてください。



- 5 インポートするファイルの選択画面が表示されます。インポートするファイルを指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



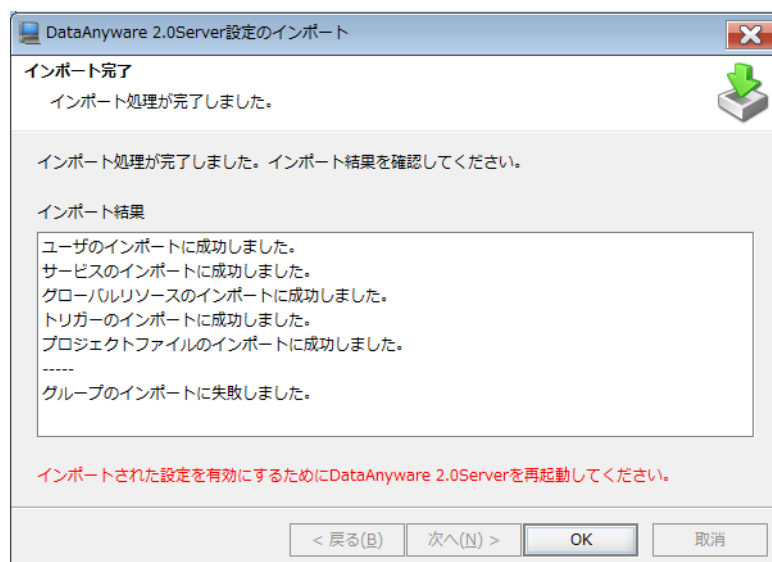
- 6 インポートが完了すると、インポート完了画面が表示されます。
設定を有効にするために、DataAnyware 2.0 Server を再起動してください。



リポジトリ DB を使用していない環境でインポートを行った際に、「グループのインポートに失敗しました」と表示される場合があります。

上記メッセージは、リポジトリ DB を使用しない場合にユーザ管理機構（ユーザやグループの追加）が利用できないため、表示されます。

リポジトリ DB を使用しない場合は、インストール時に作成される root ユーザーおよび root グループのみを使用するため、影響はありません。



表示内容

4章 動作確認

この章では、マイグレーション作業後の動作確認の実施内容を示します。

4.1 管理コンソールの動作確認

管理コンソールの動作確認として、以下を実施してください。

- 1 Windows のプログラムと機能の一覧に表示されるバージョン表記が、使用したバージョンと一致することを確認してください。
- 2 ログイン画面に表示されるバージョン表記が、使用したバージョンと一致することを確認してください。
- 3 ログインが可能か確認してください。
- 4 ログの一覧等、各種リストが正常に表示されていることを確認してください。
- 5 画面に文字化け等が発生していないことを確認してください。

4.2 新バージョンの本製品の動作確認

新バージョンの本製品の動作確認として、以下を実施してください。

- 1 Windows のプログラムと機能の一覧に表示されるバージョン表記が、使用したインストーラーのバージョンと一致することを確認してください。
- 2 Studio のコントロールパネルから「バージョン情報」を選択し、表示された画面内のインストーラバージョンのサーバ・クライアントの項目に、「DataAnyware 2.0 MigrationKit<インストールしたバージョン>(ビット数)」と表示されていることを確認してください。
- 3 移行したプロジェクト、マイトリガー、グローバルリソースの一覧が表示されることを確認してください。

マイグレーションガイド

第 1 版 2009 年 12 月 4 日

第 10 版 2023 年 3 月 24 日

発行 JB アドバンスド・テクノロジー株式会社

お問い合わせ 弊社ホームページより、お問い合わせください。

<https://www.jbat.co.jp/>

本書は著作権上の保護を受けており、本書の全部あるいは一部に関して、JB アドバンスド・テクノロジー株式会社からの文書による許諾を得ず、無断で複写、複製することは禁じられています。また、本書はユーザーへ通知することなく変更される場合があります。